

# 放射線の健康管理・健康不安対策事業

## とりまとめコメント

---

- 長期アウトカムの設定について、本格的な復興・再生に向けての最終目標を明確にするためにも、具体的な数値目標の設定を検討すべきではないか。
- 被災者を対象としたリスクコミュニケーション指標として、セミナーやシンポジウムの開催件数と内部被ばく線量測定会場数を合わせた数値を置くことの意義が感じられず、より実質的な効果把握につながる指標が必要ではないか。
- 放射線の健康影響に関する意識調査については、数字的改善はみられるが、むしろ可能性が高いと回答している人たちが何故にそう思うのかの理由を明らかにした上で、適切な情報と発信方法を見極めていくべきではないか。
- 継続的に実施すべき重要な事業であるが、今後の状況変化への対応も必要であり、継続的指標を大切にする一方で、時代に合った指標の追加や見直しも検討すべきと考える。
- 情報発信事業について、日本国内だけではなく、世界に向けた多言語での情報発信が誰に届き、どのような成果をあげたのか、アクセス数や受け手の認識変化などの指標も組み込んでいくべきではないか。
- 長期アウトカムの指標は、リスク・ベネフィット分析の結果であり、個人の判断に他ならず、リスクコミュニケーションのアウトカムとして測定可能なのか疑問である。
- 長期アウトカムの指標に対する短期・中期とのつながりが不明瞭であり、当該事業効果の影響判断が困難。各事業のアクティビティの効果を定量的に測れるように目標と KPI を設定すべきではないか。